



大会第1日 2022年11月26日 (土)

8:30~	受付開始			
9:00~ 9:05	開会の挨拶 (1-204)			
	Session A (1-204) 司会：遠藤衣穂	Session B (1-303) 司会：遠山菜穂美	Session C (1-309) 司会：明木茂夫	パネル企画 1 (1-202) 9:10~11:20
9:10~ 9:50	A-1 井上果歩 「後フランコ式」とは何か： 理論と記譜法の観点から	B-1 永井玉藻 19世紀末のパリ・オペラ座 におけるバレエの衰退：劇場 運営規則および上演レパート リーの変遷から見る背景	C-1 仲辻真帆 明治期から昭和初期の音楽理 論教育：東京音楽学校におけ る和声教育を軸として	クセナキス研究が示唆する音 楽学の拡がり コーディネーター：椎名亮輔 ゲスト・スピーカー：マキ ス・ソロモス パネリスト：柿沼敏江、水野 みか子、三上良太
9:55~ 10:35	A-2 牧野環 ギファード・パートブックス の典礼用声楽作品における定 旋律技法	B-2 岡田安樹浩 《オルガン付き交響曲》にお けるサン＝サーンスのワグ ナー受容	C-2 齊藤紀子 近江ミッションの音楽活動： 日本人の参画に注目して	
10:40~ 11:20	A-3 粕山陽子 バードの《詩編・ソネット・ 歌曲集》における歌詞の扱 い：歌詞の割り当てに着目し て	B-3 川上啓太郎 無伴奏フルートのための《ネ クテルの歌》の源泉を探 る：ケクランが紡ぐ物語と、 その間テクスト性	C-3 藤束君 ラジオ体操から見る近代日本 の音楽教育とジェンダー	
11:25~ 12:05	A-4 萩原里香 祝祭プロデューサー「踊りと 音楽のマエストロ」	B-4 高柳鞠子 ゴーベルの全作品目録の中 で見るフルート作品：彼の音 楽へのよりよい理解のために	C-4 松村洋一郎 日本の音楽大学・音楽学部 における沿革史の分析：大学 沿革史編纂の意義について	
12:05~ 13:10	昼休み			
	Session D (1-204) 司会：川本聡胤	Session E (1-303) 司会：長木誠司	Session F (1-309) 司会：粕山陽子	パネル企画 2 (1-202) 13:10~14:35
13:10~ 13:50	D-1 中島康光 J. S. バッハが鍵盤作品に付 したスラーの意図	E-1 牧野広樹 第三帝国期の音楽実践にお ける理念とイデオロギー	F-1 松橋輝子 日本のカトリック聖歌に見ら れるドイツ語聖歌集からの影 響	ピアノ製作家、大橋幡岩 (1896~1980) をめぐって： 浜松市博物館所蔵「大橋資 料」から見えてくる日本のピ アノ製造史 司会：小岩信治 パネリスト：井上さつき、奥 中康人、三浦広彦、磯部弘司 コメンテーター： 武石みどり、神村かおり
13:55~ 14:35	D-2 佐竹那月 C. P. E. バッハのクラヴィー ア・ソナタにおけるファンタ ジアの要素：多様な終止法に みる晩年の作曲様式	E-2 齋藤由香利 A. ツェムリンスキー《6つ の歌曲》作品22の2つの結 末	F-2 梶大也 山田耕筰研究史と史学史的ア プローチ	
14:40~ 15:20	D-3 新林一雄 レーゲンスブルクとヴァラー シュタインの宮廷楽団にお ける交響曲：19世紀に向かう 管楽器群の拡張と書法の変化	E-3 中原佑介 紀元2600年祝典行事でのト ロイアの木馬たち：ヴェレ シュ・シャーンドルとベン ジャミン・プリテンの交響曲	F-3 星野宏美 「天使の合唱」、あるいは 「ベートーヴェンのハレル ヤ」：《オーヴ山上のキリ スト》終合唱の日本における 受容	
15:25~ 16:05	D-4 大高誠二 ソナタの終結部に見られるリ ズム的定型構造について	E-4 大久保真利子 国際文化振興会『日本音楽 集』の録音に関する検討：盤 面および関連音源の分析を中 心に	F-4 柴田康太郎 試聴空間としての映画館： 1930年代の東京の事例を中 心に	

16:20-17:50	総会 (1-202)
19:00～	オンライン情報交換会 (Zoom開催)

大会第2日 2022年11月27日 (日)

8:30～	受付開始			
	Session G (1-204) 司会：瀬尾文字	Session H (1-303) 司会：武石みどり	Session I (1-309) 司会：藤田隆則	パネル企画3 (1-202) 9:00～11:10
9:00～9:40	G-1 木村遥 ラモー《ブラター》における〈ヴィエル風メヌエット〉の役割	H-1 黒川真理恵 G. プッチーニ《蝶々夫人》におけるR. ディットリヒ『Nippon Gakufu』からの引用		「近代、戦争、音楽」：勝者の音楽史 パネリスト・司会：上尾信也 パネリスト：友利修、沼野雄司
9:45～10:25	G-2 佐藤康太 ヨハン・アドルフ・ハッセのオペラに基づく教会音楽	H-2 釘宮貴子 黄禍論とジャポニスム・オペラ：テオドル・サントー《タイフーン》(1924)	I-1 濱崎友絵 A. A. サイグンのトルコ民俗音楽研究：バルトークとの交差を射程に	
10:30～11:10	G-3 児玉瑞穂 18世紀後半のドイツ、ザクセン地域の音程観：多鍵式フルートの運指表にみる半音の取り扱いから	H-3 石野香奈子 クロード・ドビュッシーの後期作品におけるスケルツァンド	I-2 鈴木聖子 音楽芸能の記録と保存における音と映像の関係：日本ピクチャーの音響映像メディアのコレクションを事例として	
11:15～11:55	G-4 山田高志 “巡業”によって支えられたイタリア中小都市の音楽劇、教会音楽：1784年、シチリア中部・エンナ大聖堂の音楽家リクルート契約に着目して	H-4 内藤多寿子 フラダリック・モンポウ「ピアノ演奏のための表現法」の成立	I-3 向井大策 地域芸能と歩む：地域社会との協働を志向する音楽学的実践の事例から	
11:55～13:00	昼休み			
	Session J (1-204) 司会：福田弥	Session K (1-303) 司会：清水慶彦	Session L (1-309) 司会：沼野雄司	パネル企画4 (1-202) 13:00～15:10
13:00～13:40	J-1 石川由梨 シューマンの《パピヨン》の創作の原点であるフルツ集の構想：自筆譜の分析を中心に	K-1 加藤新平 台湾、朝鮮、中国の音楽を用いた早坂文雄の作品	L-1 鷲野彰子 20世紀前半の演奏会における即興の前奏演奏実践例の分析	クラウス・プリングスハイム(1883-1972)の事績に関する新たな観点：歿後50年に際して コーディネーター：酒井健太郎 パネリスト：仲辻真帆、西原稔、山下暁子
13:45～14:25	J-2 友利修 F. リスト《巡礼の年 第1年 スイス》のナラティブ分析：パラテキストへの着目がもたらすもの	K-2 原壘 甲斐説宗の作曲技法と思想について：自筆資料調査を中心に	L-2 高橋舞 解釈を記録するメディアとしての実用版楽譜および録音：師弟間における演奏解釈の継承	
14:30～15:10	J-3 笹沼恵美子 フランツ・リストと日本二十六聖人列聖式：リストの創作転換点としての列聖式	K-3 那須聡子 松平頼則資料群の目録構成に向けて	L-3 早坂牧子 三浦環の《冬の旅》：録音と訳詞にみる演奏の実際	
15:15～15:55	J-4 石原勇太郎 ブルックナー《交響曲第4番》におけるCes音の機能：調構造への介入と改訂による機能の変遷	K-4 宮川渉 細川俊夫作品における旋律の漸進的展開の手法	L-4 山上揚平 ビデオゲームにおける音響・音楽的可変性とインタラクティビティを巡る議論の批判的整理の試み	
16:00～16:05	閉会の挨拶 (1-204)			